



やすらぎ

岐阜市民病院公式ホームページ <https://gmhosp.jp/>



小児入院患者の復学支援に
取り組んでいます

中央診療棟7階 地域連携室



多職種による復学・復園支援会議の様子

当院の小児病棟では、小児がん、心身症、急性期疾患など様々な疾患の患児が入院をしています。その中でも小児がんや心身症で入院している患児は治療のため長期入院を余儀なくされています。入院治療中は、それまで通っていた学校生活の継続が難しいため、院内にある学級へ転校して学習を継続することができます。

当院では、通っていた学校での様子や病

気の共有のための【転入支援会議】、また長い入院生活を終えて、退院とともに通っていた学校へ戻る時には【復学・復園支援会議】を行っています。

復学・復園支援会議は地域連携部が窓口となり、主治医、看護師、理学療法士、院内学級教諭、学校関係者、保護者が会議に参加します。主治医より入院生活の様子、学校生活を送る上での注意点、内服状況などを説明し、看護師からは復学することに当たっての本人の思いや保護者の不安を、理学療法士からは体力面についてなどをお伝えします。院内学級教諭からは学習進度について話を行い、復学についての注意点などの情報共有を行います。復学後に予測される事や、通っていた学校からの疑問などを共有することで患児がスムーズに復学できることを目的としています。

会議後、保護者からは、主治医や看護師から話してもらえて安心した、学校の先生に伝えたいことを話すことができましたなどの声を聞くことができます。また、現在、新型コロナウイルス感染拡大による面会制限のため、入院後は、学校の担任の先生による面会ができませんが、会議後に主治医から特別に面会が許可されることもあります。担任の先生と会えた患児のうれしそうな笑顔、担任の先生の安心した表情を見ることができ、とても微笑ましい

ひと時となります。

長期入院により学習面の不安、その後は復学や生活において様々な不安があると思います。今後も、小児病棟では、患児がスムーズに元の生活に戻ることができるよう、多職種で連携し、転入支援会議、復学・復園支援会議に取り組みでまいります。



Contents

- 小児入院患者の復学支援に取り組んでいます……P1
- 岐阜市立本荘中学校との交流をご紹介します……P2
- AYAサポートチームを結成しました……P2
- 市民公開講座再開のお知らせ……P3
- 脳神経内科の外来診察室を移転しました……P4
- 分べん料改定のお知らせ……P4

岐阜市立本荘中学校との
交流をご紹介します

当院のすぐ北側には岐阜市立本荘中学校が所在しています。また、院内には長期入院する生徒のための院内学級も設けられています。このような関係から、今年度さまざまな交流を行いましたのでご紹介させていただきます。

災害に関する講話

令和3年12月18日、当院及び本荘中学校が所在する本荘校区自治会連合会と本荘中学校による防災研修が開催されました。研修テーマは「助けられる側から助ける側へ」です。

その研修の中で、村上栄司医師(災害医療部部长)が、災害に関する講話を行いました。災害拠点病院に指定されている当院の役割やDMAT(災害派遣医療チーム)について、コロナ禍の状況をふまえて、中学生が被災者へ支援を行う際に気を付けたい感染対策などについて説明するとともに、実際に本荘校区が被災した場合にどのようなことが予想されるかといった現実的な内容についてもお話ししました。生徒だけでなく訓練に参加された自治会連合会の方々も興味深く聞いておられました。

災害が発生した時、市民病院が単独で対応することはできません。行政や自治体等との連携は不可欠であると考えます。こうした活動を通じて、日ごろから顔の見える連携を行ってまいります。



生徒の前でスライドを使って講演する村上災害医療部部长

がん教育

令和4年1月13日、柴田凌看護師(中央手術部)が全校生徒に対してがんに関する授業を行いました。

柴田看護師は中学生の時に血液のがんを患い、高校受験を乗り越え進学し、看護師免許を取得。現在は、自身が治療を受

けた岐阜市民病院のスタッフとして活躍しています。自身の闘病経験や、その周りに支えられた言葉がけなどのエピソードを紹介しつつ、生徒に対しては、周りに困っている人がいたら声掛けをしてあげてほしいことや、いろいろな目標を達成するためのモチベーションを保つコツなどをお話しました。

中学校ではがんに関する授業が毎年行われ、これまでも医師が授業を行ったりしてまいりましたが、今後も医療が身近に感じられるような取り組みに協力してまいります。



全校生徒の前で自身の体験を交えてがんの授業を行う柴田看護師

AYAサポートチームを
結成しました

がん診療局がん相談支援センター

AYA世代という言葉をご存じでしょうか? AYA世代とはAdolescent and Young Adult(思春期 若年成人)の頭文字をとったもので、主に、思春期(15歳)から30歳代までの世代を指しています。AYA世代は、多くの人にとって親から自立したり、生活の中心が家庭や学校から社会での活動に移行したりしていくなど、大きな転換期を迎える時期でもあります。このような時期にがんと診断されると、心身にさまざまな影響を受けることがあります。また、成人のがんに比べて情報が少なく見つけることが難しいなど、不安を抱く人も少なくありません。日本では、毎年約2万人のAYA世代が、がんを発症すると推定されています。AYA世代でがんを発症する人は、1年間でがんを発症する人100人のうち2人程度です。年代別にみると、15~19歳が約900人、20歳代は約4,200人、30歳代は約16,300人です(2017年)。(岐阜県では2017年にAYA世代の方で353人が、がんを発症されています。)

こういった背景から、当院では、AYA世代のがん患者さんへの支援チーム「AYAサ



イベントには300名以上の方にご参加いただきました。



ポートチーム」を今年度結成しました。チームメンバーには、医師、看護師、薬剤師、リハビリ技師など多職種が所属しています。当院に受診している患者さんだけでなく、ご家族からの相談や当院に受診していない患者さんからの相談もお受けいたします。メンバーの中にはがん経験者もあり、経験者の声を聴きたいという相談にも対応可能です。当院ホームページのがん相談支援センターのページには相談フォームもありますので、お気軽にご相談ください。

患者さんからの相談対応だけでなく、AYA世代のがんに関することを多くの方にご知ってもらうため、啓発活動にも力を入れています。今年度は10月24日(日)にカラフルタウン岐阜で啓発イベントを開催しました。今後も各所で啓発イベントやセミナーを開催していきます。イベントの情報やAYA世代のがんに関する情報発信をInstagramでも行っていますので、ぜひフォローをお願いします。

市民公開講座再開のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大により長らく中止しておりました市民公開講座を、令和3年9月より再開いたしました。

再開にあたり、感染防止対策として、当



会場では、楽しくハビリ体験を行う催しや、がん細胞を顕微鏡で観察する催しなどを開催しました。

院への来院(サルビアホールでのご参加)については、会場が密とならないよう定員数を定め、事前にお申し込みいただく方式を導入いたしました。また、会場ではマスク着用と手指消毒、十分な換気を徹底し、参加者、出演者の体調確認を行ったうえで開催しております。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、サルビアホールでの開催を中止する場合がありますので、予めご了承ください。

また、新たな試みとして、公開講座の様子を、インターネットを用いて同時配信する「オンラインWEB講座」を開設し、会場とインターネットとのハイブリッド形式での開催といたしました。これにより、ご自宅からでも市民公開講座をご視聴いただくことができるようになります。すでに多くの方にご利用いただいております。なお、オンラインWEB講座は、事前のお申し込みが不要となっております。

太田宗一郎病院長による講演から再開した市民公開講座は、毎月1回のペースで開催し、新型コロナウイルス感染症に関することや各診療科の医師による様々な疾患に関するテーマでの講演を行っています。毎回、配布資料やスライドを用い、市民の皆様にご覧いただける限り分かりやすくお伝えできるように心がけております。

これからも、生活習慣病などの身近な話題から最先端の話題まで、医療に関する

幅広い情報をお届けしてまいります。今後の開催予定など、市民公開講座の詳細は、市民病院ホームページ内市民公開講座のページをご覧ください。たくさんのご参加をお待ちしております。



↑オンラインで講演を行う太田病院長

←会場では間隔を十分にとり開催

市民公開講座の情報はこちらから→





	移転後 (令和3年11月から)	移転前 (令和3年10月まで)
受付場所	Aブロック	Bブロック
診察室	診察室3	診察室6

移転後の診察室は下の図のとおりで、受付場所は中央診療棟1階Aブロック(売店前)となります。脳神経内科の移転により、脳神経外科や整形外科と同じブロックになり、神経・筋骨格疾患が集まるので、より集学的な医療が提供しやすい診療体制となりました。

外来待合における混雑を解消するため、令和3年11月1日から、脳神経内科(旧・神経内科)の外来診察室を移転しました。

脳神経内科の外来診察室を移転しました



中央診療棟

	改定後 (令和4年1月1日から)	改定前 (令和3年12月31日まで)
・平日の8時から18時までの出産	150,000円 多胎の場合は1児につき90,000円加算	140,000円 多胎の場合は1児につき80,000円加算
・平日の6時から8時まで又は18時から22時までの出産 ・土曜日の6時から22時までの出産	160,000円 多胎の場合は1児につき100,000円加算	150,000円 多胎の場合は1児につき90,000円加算
・平日又は土曜日の上記以外の時間帯での出産 ・休日の出産	185,000円 多胎の場合は1児につき125,000円加算	160,000円 多胎の場合は1児につき100,000円加算

※休日とは、日曜日、国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日、1月2日、同月3日及び12月29日から同月31日までの日を含みます。
※上記金額とは別に、出産に関する入院費等が発生します。

当院では、安心、安全な分娩環境を維持するため、令和4年1月1日以降にご出産をされた方から、「分娩料」を次のとおり改定させていただきます。何卒ご理解をいただきますようお願いいたします。

分娩料改定のお知らせ

外来診療のご案内

- 診療科目・・・内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、呼吸器・腫瘍内科、消化器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、精神科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科
- 休診日 土・日・祝日と12月29日～1月3日

*詳細はホームページでも紹介しています。
<https://gmhosp.jp/>

新型コロナウイルス対策実施中



岐阜市民病院広報誌「やすらぎ」のバックナンバーについて

当院では、過去に発行した広報誌「やすらぎ」を市民病院ホームページに掲載しています。過去の「やすらぎ」をご覧になりたい方は、市民病院ホームページ内広報誌「やすらぎ」のページからご覧ください。



Gifu Municipal Hospital
岐阜市民病院

〒500-8513 岐阜市鹿島町7丁目1番地

電話：058-251-1101(代表)

編集発行：岐阜市民病院 広報委員会